

**学校教育目標 「社会の変化に主体的に対応できる、心豊かな子どもの育成」**

- ・ ①かながえる子…自らよく考え、進んで行動する子ども
- ・ ②つかしさを求める子…美しいものに感動し、心豊かに表現する子ども
- ・ ③なかのよい子…ともに認め合い、高めあえる、思いやりの心をもつ子ども
- ・ ④よい子…心身ともに健康で、たくましく生きる力をもつ子ども

**ミッション(給)教職員の願い**

- ・ 自主的、主体的に活動できる能力
- ・ 基本的生活習慣、社会生活上の決まりを身につけ、善悪を判断する力
- ・ 相手を思いやり、互いにかかわりあい支え合い共に高まり合える力
- ・ 確かな言語の力と考えを伝え合う力を通しての生きて働く力
- ・ 思考力・判断力・表現力
- ・ 豊かな自己表現力と自尊感情の育成
- ・ 自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する力
- ・ よく聴き、学び合う力



**ミッション(給)地域保護者の願い**

- ・ 思いやり、やさしさ、あたたかさ、生きる力
- ・ 忍耐力、強い意志、勇気
- ・ 積極性、自立心、協調性
- ・ 基礎学力の定着、応用力
- ・ 基本的生活習慣の確立
- ・ 健康、たくましさ
- ・ 規範性、感性、体力、コミュニケーション能力を町ぐるみで育てる

**めざす学校像(ビジョン)**

- (1) 確かな力と豊かな心をはぐくみ、どの子どもも輝く、明るく楽しい学校
- (2) 保護者や地域の人に信頼され、まちぐるみでつくる開かれた学校
- (3) 教職員自らが意欲をもち、専門職としての力量を高めあう学校

**課題解決に向けての対策**

(H23年度)キーワード『 共通理解・共通認識(全体で決定したことについては、全教職員が一致して取り組む。)』

(22年度の児童の実態・反省と課題を基に作成・・・(予防的生徒指導の考えを学校経営計画に位置づける)

(1) 学力の向上〔協同的な学びを通して基礎基本の確実な定着を図り、思考力を育てる。(確かな学力をつける。)]・・・学年部会・低中高部会で悩みを出し合い、意見を交流しながら研修を充実させる。

算数科を重点教科として、～を基に研修を深め、基礎基本の確実な定着を図ると共に思考力を育てる。

(研修推進部)

協同的な学び〔ねらいを明確にしたペア学習・小集団学習(4人組が望ましい)]を授業の中に組み入れ、「わからないから教えて」といえる学習集団を育てる。

「学び合いふり返りカード」や「学び合いの視点」を活用し、評価の視点を明確にして指導する。(各学級でどこまで到達したか確認し、ふり返りながら進める。学び合いの視点に系統性を持たせる。)

ドリル学習(フラッシュカードの活用)を帯タイムに組み込む。1～4年帯タイムの内容において系統性を持たせる。

ねらいに迫る媒体(教具・操作活動等)を用意し、視覚的に理解を図る。

TTや習熟度別学習など指導形態の工夫を続けるとともに、個に応じた指導を行い、正答率30パーセント未満の児童の学力を高める。

読書タイム・読み聞かせを行うことで、朝の時間、校内が一斉に静かになる時間を設ける。

(教務部)

「学習規律10項目」や「家庭学習の手引き」を中心に据え、各学年での卒業試験に向けて頑張る意欲を引き出す。学校と家庭の連携を引き出す。(家庭学習の習慣化)

(研修推進部)

(2) 豊かな人間性の育成・まちぐるみによる教育の推進・健康安全教育の推進 (子ども理解を通して、対人関係能力を育成する。)

道徳は、年間指導計画に位置づけて計画的に工夫した授業を行っていく。(ライフスキル教育や規範性を育む教材プログラムも含めて)

(教務部)

あいさつ運動・学級指導・校内での声かけ・家庭との連携などにより、良質な人間関係作りの基礎を築かせる。

(生徒指導部)

コミュニケーション活動や教育相談を年間計画に位置づけ、予防的生徒指導の考えの上に立った「いじめ・不登校への早期支援プログラム」を改善し実践する。

(生徒指導部)

地域教材を基にした取組や異年齢集団でのピア・サポート的交流活動を行い、良質な人間関係を築かせる。

(教務部)

基本的生活習慣が身につけていない児童への指導を行う。(生活リズムカレンダーの取り組みを生かす。)

(保体部)

登校班への指導を通して、安全を意識した登下校についてもっと考える機会を持たせる。「地域安全マップ」を活用する方法を考える。

(生徒指導部)

幼小中交流を図り、上級生は下級生を思いやり、下級生は上級生に対して良質なあこがれを持つというような人間関係作りを築かせる。

幼小の交流(教務部)・小中の交流(生徒指導部)

新体力テストの分析を行い、その結果に基づいて体力づくりをすすめる。

(保体部)

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準			
				努力指標	成果指標		
学力の向上	話をよく聴き、学び合う児童をはぐくむことを通して、確かな学力を定着させる。	小集団学習を土台とした学び合いを通して、思考力を育てる（算数科を通して）（研修推進部）	算数科を中心に協同的な学びの時間を1日20分以上仕組む。	4	協同的な学びを1日20分以上仕組んだ割合が90%以上	4	算数科でいっしょに学ぶことが楽しいと感じた児童の割合が90%以上
				3	協同的な学びを1日20分以上仕組んだ割合が80%以上	3	算数科でいっしょに学ぶことが楽しいと感じた児童の割合が80%以上
				2	協同的な学びを1日20分以上仕組んだ割合が70%以上	2	算数科でいっしょに学ぶことが楽しいと感じた児童の割合が70%以上
				1	協同的な学びを1日20分以上仕組んだ割合が70%未満	1	算数科でいっしょに学ぶことが楽しいと感じた児童の割合が70%未満
豊かな人間性の育成	児童が自分の良さを見だしそれを伸ばし、自己存在感や自己実現の喜びを実感できるよう、予防的生徒指導を推進する。	挨拶運動やライフスキル教育・異年齢交流等を行い、良質な人間関係を築かせる。その取組により、自他を尊重する心を育てる。（生徒指導部）（教務部）	ピア・サポート的交流活動に取り組み、共感性や向社会的スキルを身につけさせる。	4	全校及び学年等でピア・サポート的交流活動に年4回以上取り組んだ。	4	相手を思いやり、友達関係をつくれたと評価できる児童の割合が90%以上
				3	全校及び学年等でピア・サポート的交流活動に年3回以上取り組んだ。	3	相手を思いやり、友達関係をつくれたと評価できる児童の割合が80%以上
				2	全校及び学年等でピア・サポート的交流活動に年2回以上取り組んだ。	2	相手を思いやり、友達関係をつくれたと評価できる児童の割合が70%以上
				1	全校及び学年等でピア・サポート的交流活動に年1回以上取り組んだ。	1	相手を思いやり、友達関係をつくれたと評価できる児童の割合が70%未満
		好ましい人間関係に関わるスキルを習得させる学習活動を計画的に実施する。	4	全学級 年6回以上ライフスキル教育を実施した。	4	ふり返しカードなどでねらいを達成できた児童の割合が90%以上	
			3	全学級 年5回以上ライフスキル教育を実施した。	3	ふり返しカードなどでねらいを達成できた児童の割合が80%以上	
			2	全学級 年4回以上ライフスキル教育を実施した。	2	ふり返しカードなどでねらいを達成できた児童の割合が70%以上	
			1	全学級 年3回以上ライフスキル教育を実施した。	1	ふり返しカードなどでねらいを達成できた児童の割合が70%未満	
健康安全教育の推進	心身共に健康でたくましく生きる力を身につけるために自らの生活や健康について振り返り、改善できる力を育む。	新体力テストの結果を基に、児童の体力を的確に把握し、計画的・継続的に指導を行い体力の向上を図る。（保体部）	持久力を高めるための運動を継続して、体育の授業に取り入れる。低・中・高で持久力を高めるための運動を年間通して取り組む。	4	持久力を高める運動を継続して行った児童の割合が90%以上	4	自分の体力を知り、体力が高まったと感じた児童の割合が90%以上
				3	持久力を高める運動を継続して行った児童の割合が80%以上	3	自分の体力を知り、体力が高まったと感じた児童の割合が80%以上
				2	持久力を高める運動を継続して行った児童の割合が70%以上	2	自分の体力を知り、体力が高まったと感じた児童の割合が70%以上
				1	持久力を高める運動を継続して行った児童の割合が70%未満	1	自分の体力を知り、体力が高まったと感じた児童の割合が70%未満

